

移動実態に関する調査結果

〔生活者、旅行者〕

令和 7 年 3 月
内閣府規制改革推進室

調査概要

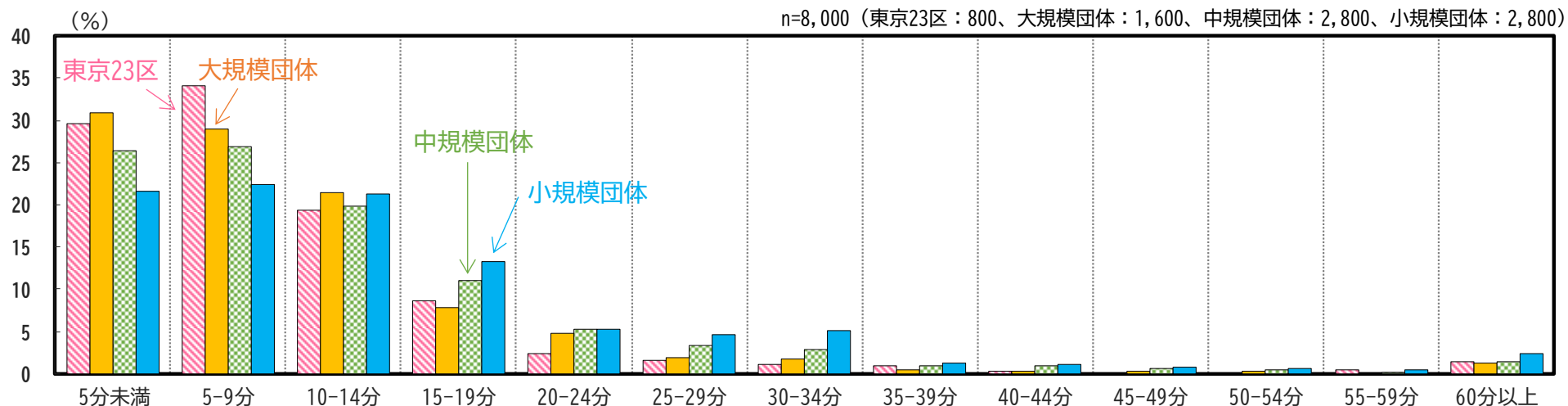
生活者、旅行者の移動の実態を把握するため、内閣府において調査を実施。

	対象地域	有効回答数	調査期間	調査方法
1 生活者	①大規模団体（人口100万人以上）11団体 ②中規模団体（人口20万人以上100万人未満）100団体 ③小規模団体（5万人以上20万人未満）383団体 ④東京23区	8,000件 (①1,600件、②2,800件、③2,800件、④800件)	令和7年2月26日（水） ～3月11日（火）	インターネットによるモニターアンケート調査を民間調査会社に委託
2 旅行者	47都道府県 (宿泊旅行統計調査（令和5年1月～12月）の都道府県別宿泊者数に基づく分布に応じた形で調査。)	8,000件	令和7年2月26日（水） ～3月11日（火）	

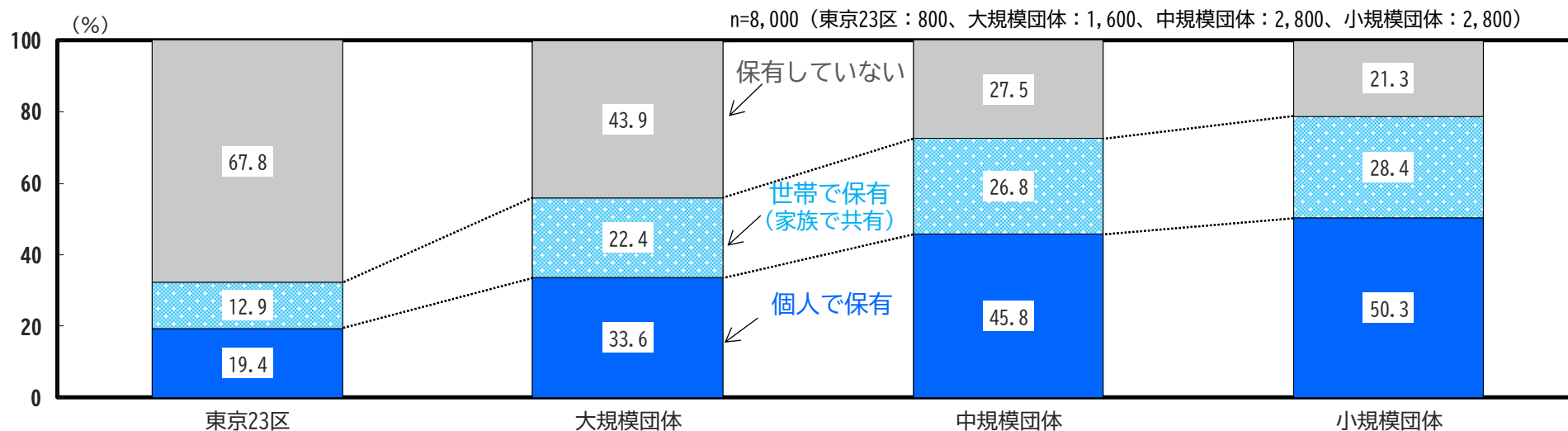
1 生活者アンケート結果

- 最寄り駅までの徒歩での所要時間は、人口規模の大きい団体では10分未満で割合が高く、小さな団体では15分以上の割合が高い傾向（1図）。
- 規模が小さくなるほど、自家用車保有割合が高い。中規模・小規模団体では個人保有が5割程度（2図）。

1図 最寄り駅までの徒歩での所要時間

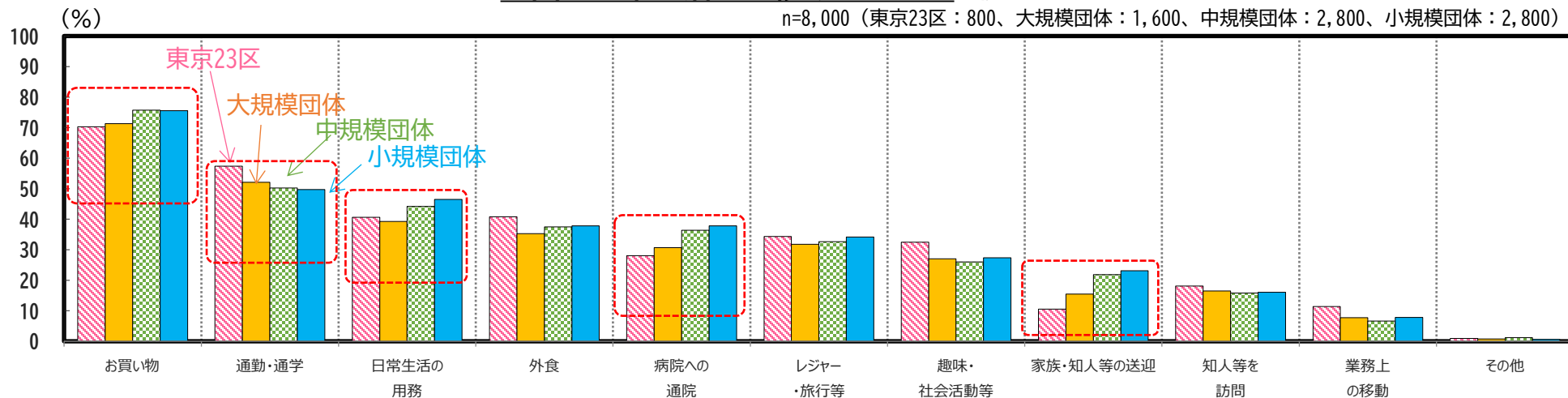


2図 自家用車の保有状況

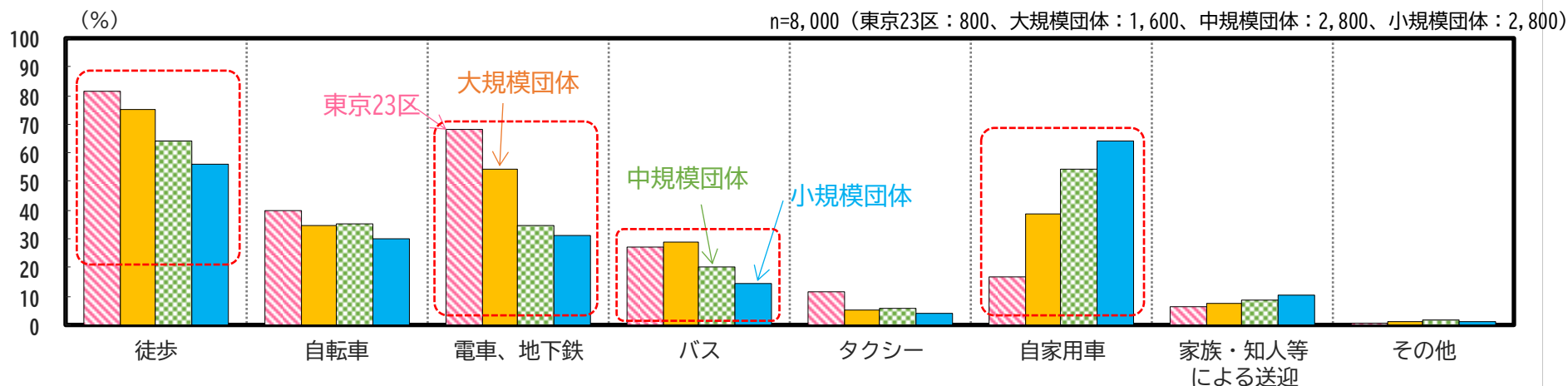


- 日常生活での移動の主な目的は、いずれの規模の団体でも「お買い物」「通勤・通学」「日常生活の用務」等で相対的に高い割合。「日常生活の用務（役所、銀行など）」「通院」「家族・知人等の送迎」については、人口規模が小さくなるほど割合が高まる傾向（1図）。
- 移動手段をみると、人口規模が小さい団体ほど、徒歩や公共交通の割合が低く、自家用車の割合が高い傾向（2図）。

1図 日常生活での移動の主目的（複数回答）

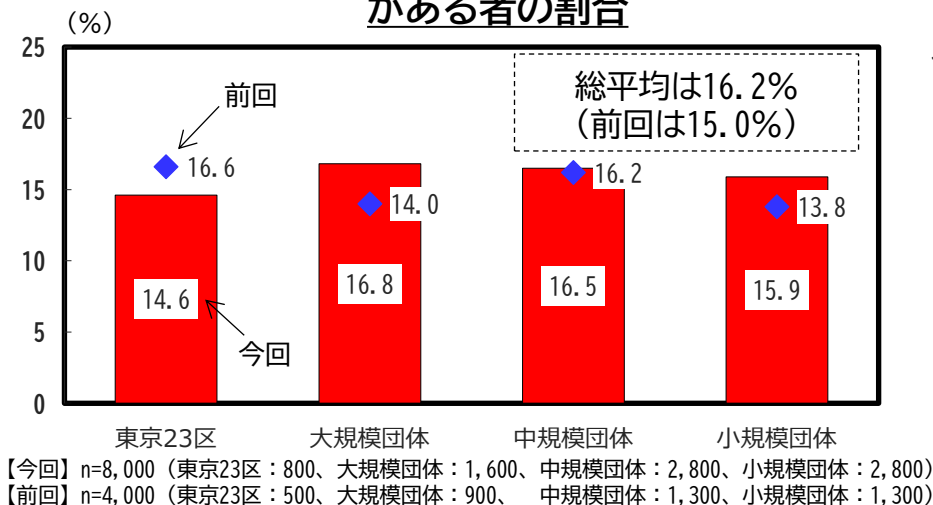


2図 日常生活における移動手段（複数回答）

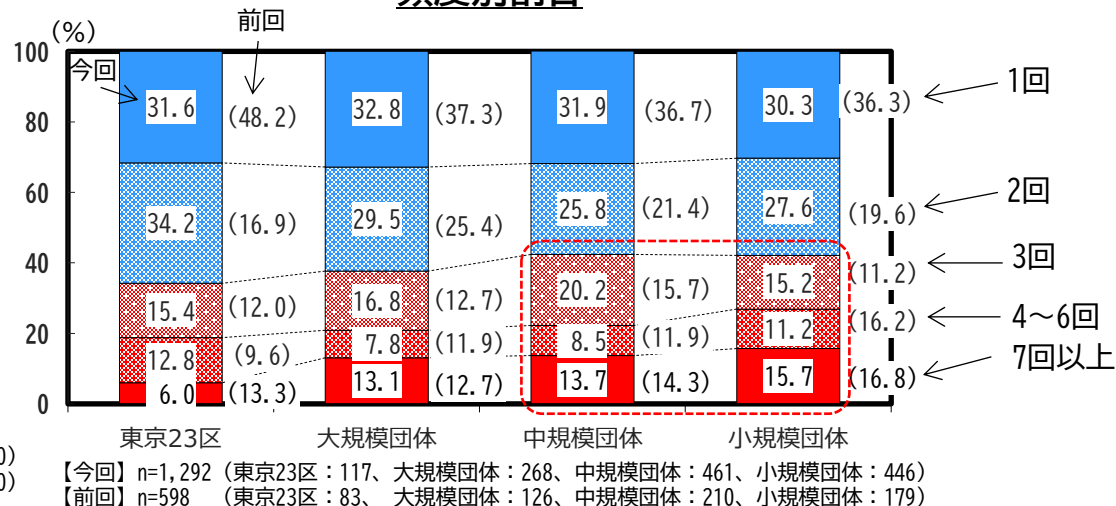


- 移動の足に困った経験がある者の割合は14～17%程度（6～7人に1人）で、規模による差はさほど見られない（1図）。
- 移動の足に困った経験を頻度別にみると、人口規模の小さな団体ほど頻度が高まる傾向があり、移動の困難が相対的に深刻である様子が窺える（2図）。
- 年齢別にみると、45歳未満の比較的若い年齢層で移動困難経験の割合が高く、また、75歳以上で割合が上昇（3図）。

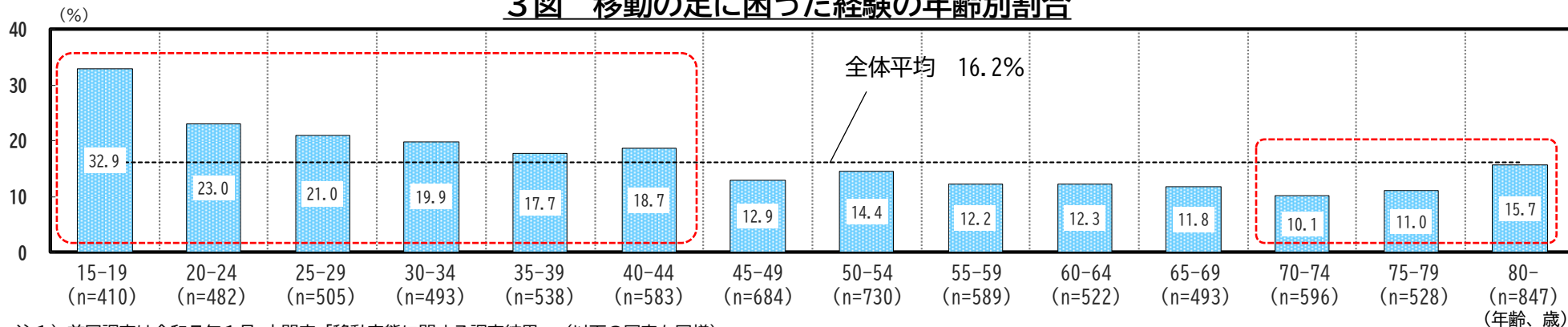
1図 移動の足に困った経験がある者の割合



2図 移動の足に困った経験の頻度別割合



3図 移動の足に困った経験の年齢別割合

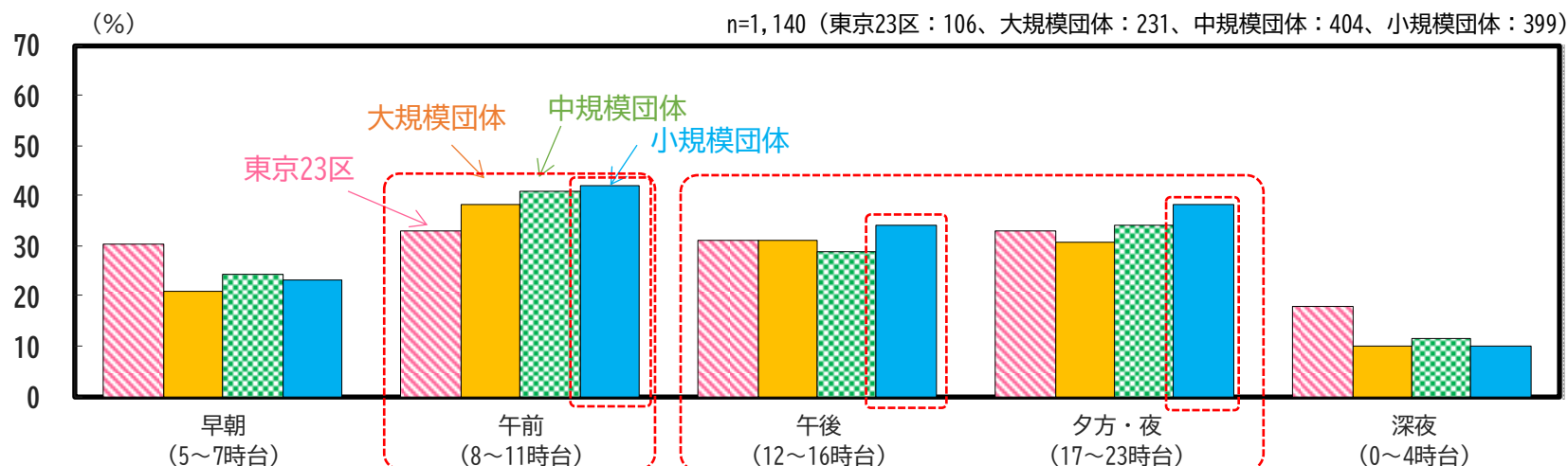


注1）前回調査は令和7年1月 内閣府「移動実態に関する調査結果」（以下の図表も同様）。

注2）移動の足に困った経験とは、タクシーがつかまらなかった、バス・鉄道の減便で移動しづらくて困った、15分以上の待ち時間が発生した、遠回りのルートにせざるを得なかった、移動をあきらめた、等のこと。

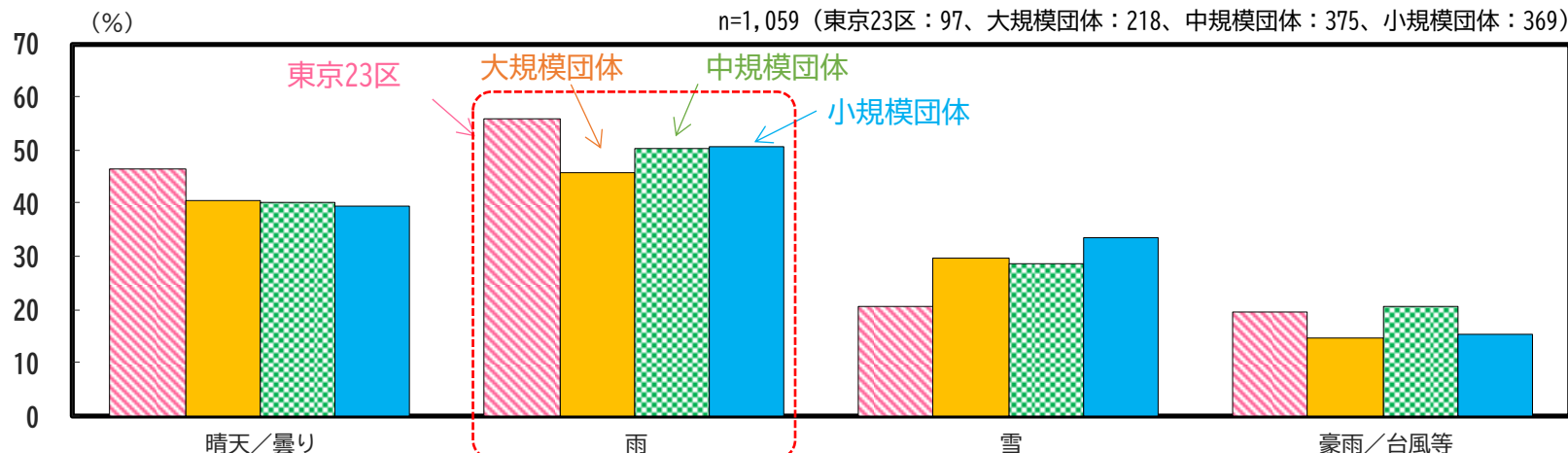
- 移動の足に困った際の時間帯については、全体的に、午前から夕方・夜までの割合が高い。人口規模別に比較すると、同時時間帯では小規模団体が最も高い（1図）。
- 天候については、全体的に雨天時の割合が高く、その中でも東京23区が最も高い（2図）。

1図 移動の足に困った際の時間帯（複数回答）



注）移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合（覚えていないと回答した者を除く）。

2図 移動の足に困った際の天候（複数回答）

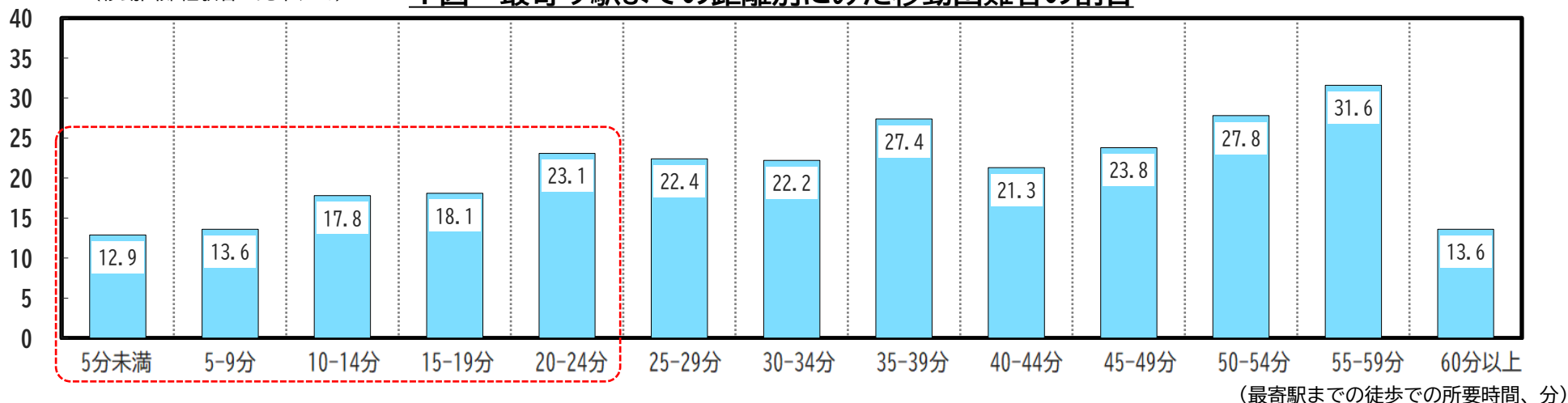


注）移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合（覚えていないと回答した者を除く）。

- 移動困難経験者の割合は、徒歩25分程度までは、最寄り駅までの距離が遠くなるほど高まる傾向（1図）。
- 移動の足に困った経験がある者について、人口規模別にみると、10分未満では中規模団体以上の割合が相対的に高く、10分以上は特に3回以上困った経験がある者については、規模が小さい団体ほど割合が高い傾向（2図）。

（移動困難経験者の比率、％）

1図 最寄り駅までの距離別にみた移動困難者の割合

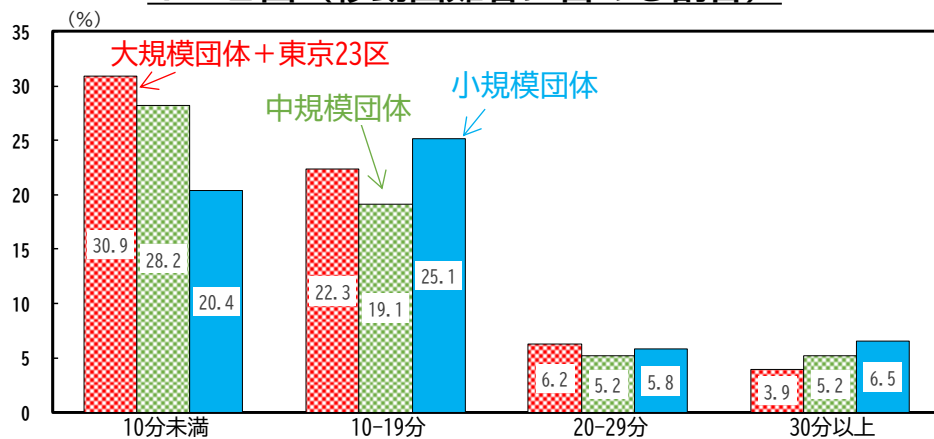


n=8,000 (5分未満：2,073、5-9分：2,117、10-14分：1,647、15-19分：874、20-24分：389、25-29分：268、30-34分：261、35-39分：73、40-44分：61、45-49分：42、50-54分：36、55-59分：19、60分以上：140)

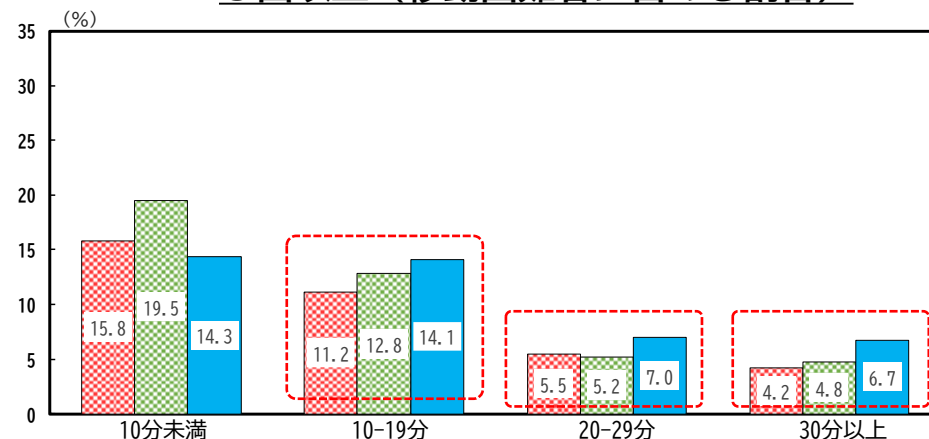
2図 移動の足に困った経験の頻度別にみた最寄り駅までの徒歩での所要時間

n=1,292 (大規模団体+東京：385、中規模団体：461、小規模団体：446)

1～2回（移動困難者に占める割合）

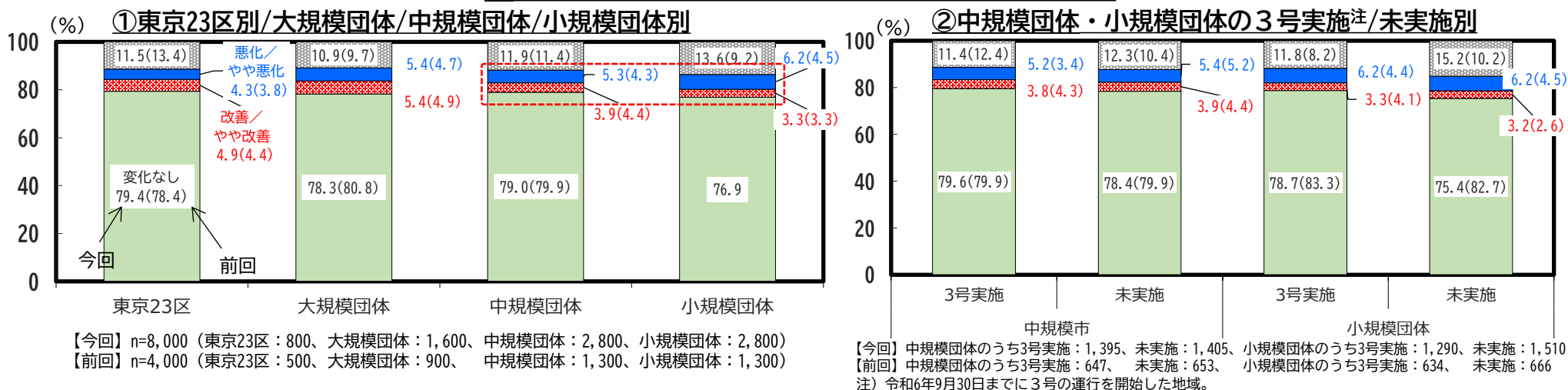


3回以上（移動困難者に占める割合）

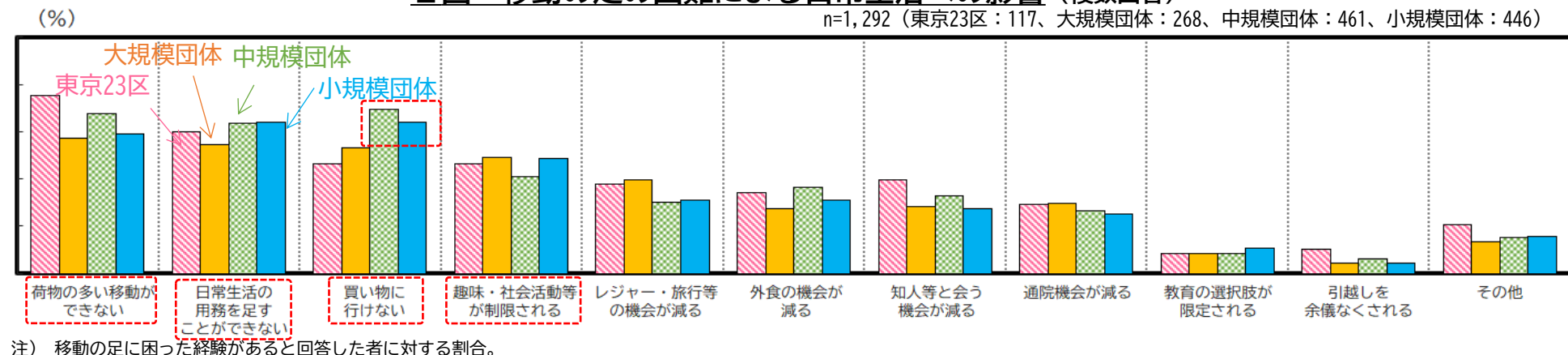


- いずれの団体においても、8割弱の者が「変化なし」と回答。差は小さいものの、中規模・小規模団体では「悪化／やや悪化」が「改善／やや改善」を上回る（1図①）。自家用車活用事業（3号）の実施有無別については、中規模・小規模団体のいずれも実施の有無による差はほとんどみられない（1図②）。
- 移動の足の困難による日常生活への影響をみると、「荷物の多い移動ができない」「日常生活の用務を足すことができない」「買い物に行けない」「趣味・社会活動が制限される」などの割合が高く、移動困難が経済社会活動に影響を及ぼしている様子が窺える。人口規模別には「買い物に行けない」の割合が中小規模団体で相対的に高い（2図）。

1図 3か月前と比べた移動の足不足の状況変化

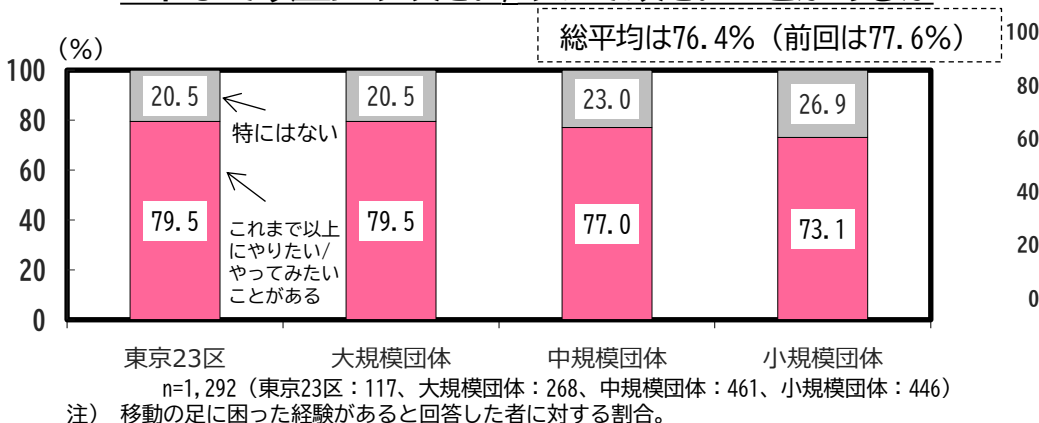


2図 移動の足の困難による日常生活への影響（複数回答）

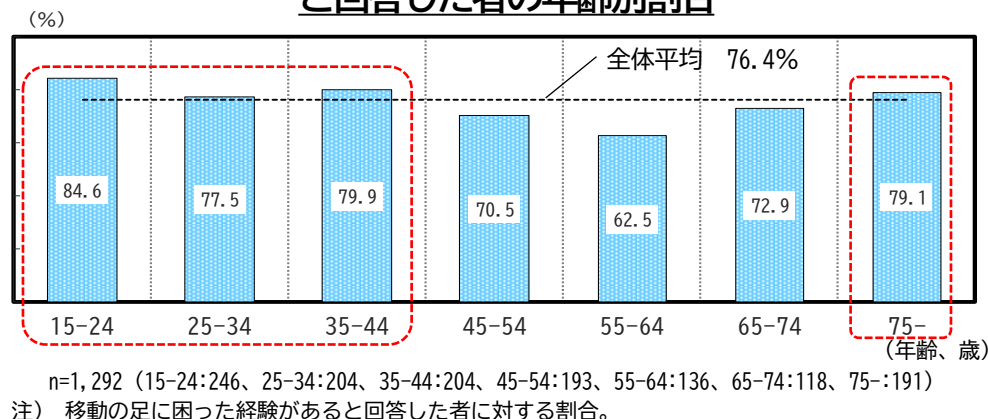


- 移動の足不足の状況が改善された場合、これまで以上にやりたい/やってみたいことがあると回答した者は、7割半ば（1図）。年齢別にみると、45歳未満と75歳以上で相対的に意欲が高い（2図）。
- やりたい/やってみたい内容をみると、幅広い活動で高い割合が示されており、足不足の改善が経済社会活動の活性化に寄与する可能性がある。年齢別にみると、「学びや教育」は若い年齢層で割合が高く、55-74歳では「レジャー・旅行」、75歳以上では「健康維持・管理」「買い物」「趣味・社会活動」の割合が相対的に高い。また、「知人など」と会う」は年齢が上がるほど割合が高まる傾向（3図）。

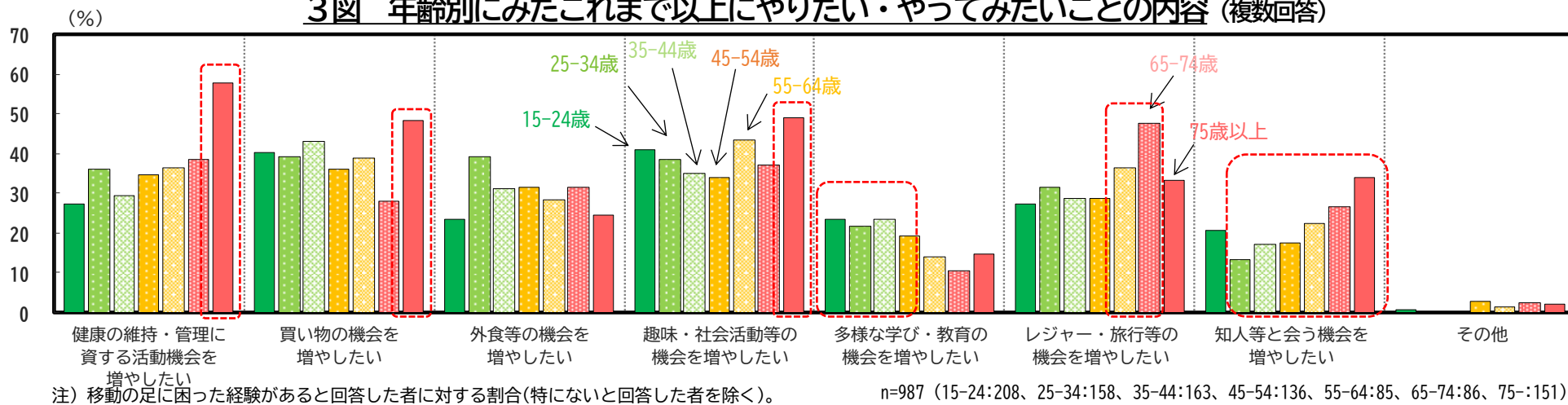
1図 移動の足不足の状況が改善した場合、これまで以上にやりたい/やってみたいことがあるか



2図 これまで以上にやりたい/やってみたいことがあると回答した者の年齢別割合

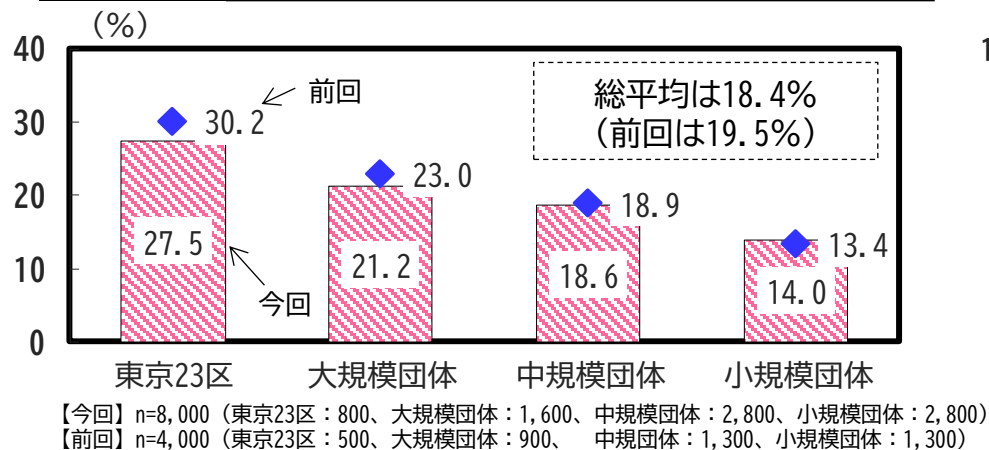


3図 年齢別にみたこれまで以上にやりたい・やってみたいことの内容（複数回答）

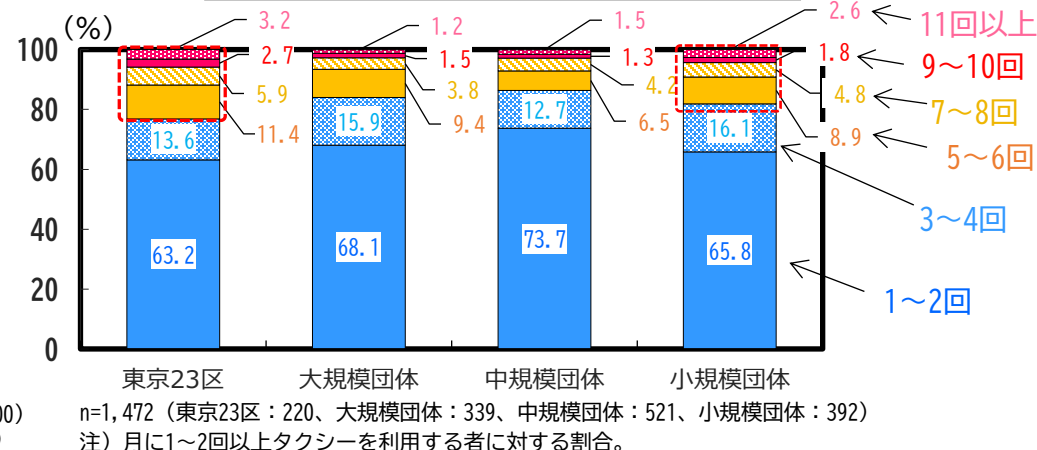


- タクシー利用者の割合は、人口規模が大きい団体ほど高い（1図）。一方、利用者の頻度別割合みると、月に5回以上利用する者の割合が、東京23区に次いで小規模団体で高い（2図）。
- 全ての人口規模において、タクシーを利用する者の5割以上は、利用しようとした際に困った経験があると回答。東京23区で最も高く、次いで小規模団体が高い割合（3図）。困った経験がある者の割合を年齢別にみると、45歳未満の年齢層で相対的に高い割合（4図）。

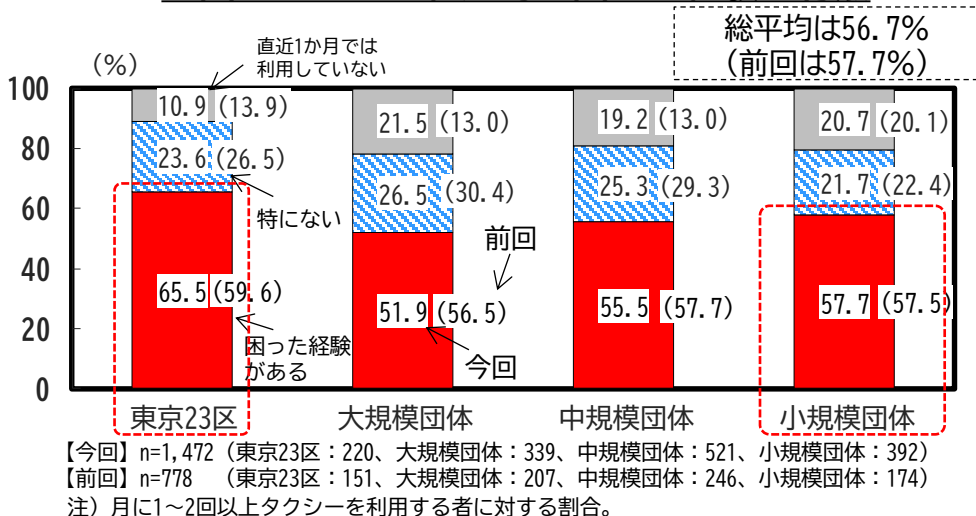
1図 月に1～2回以上はタクシーを利用する者の割合



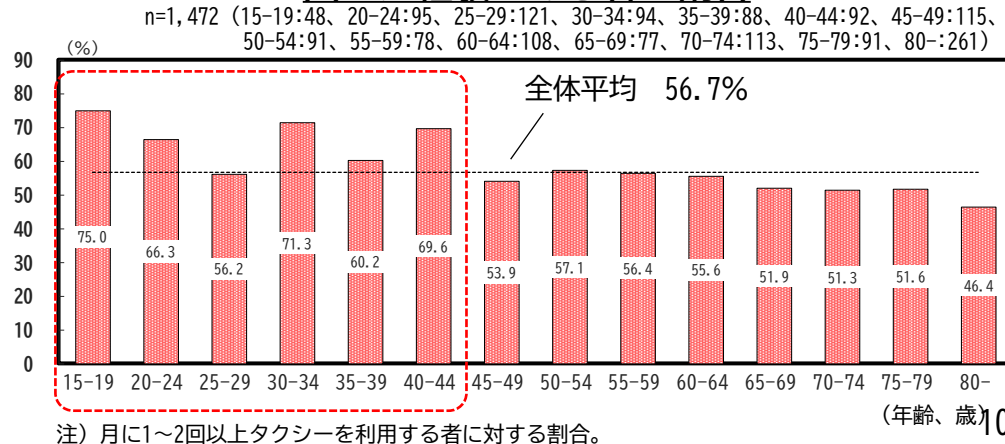
2図 タクシー利用者の利用頻度別の割合



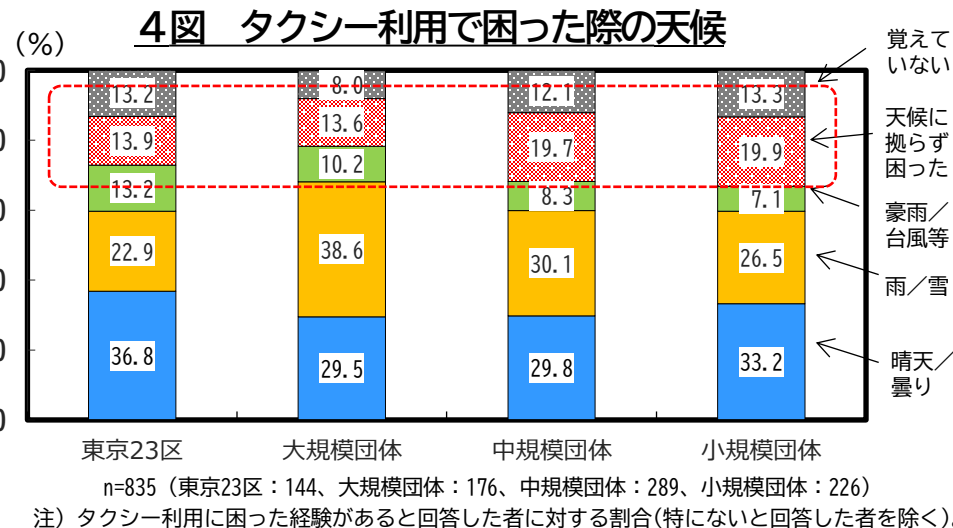
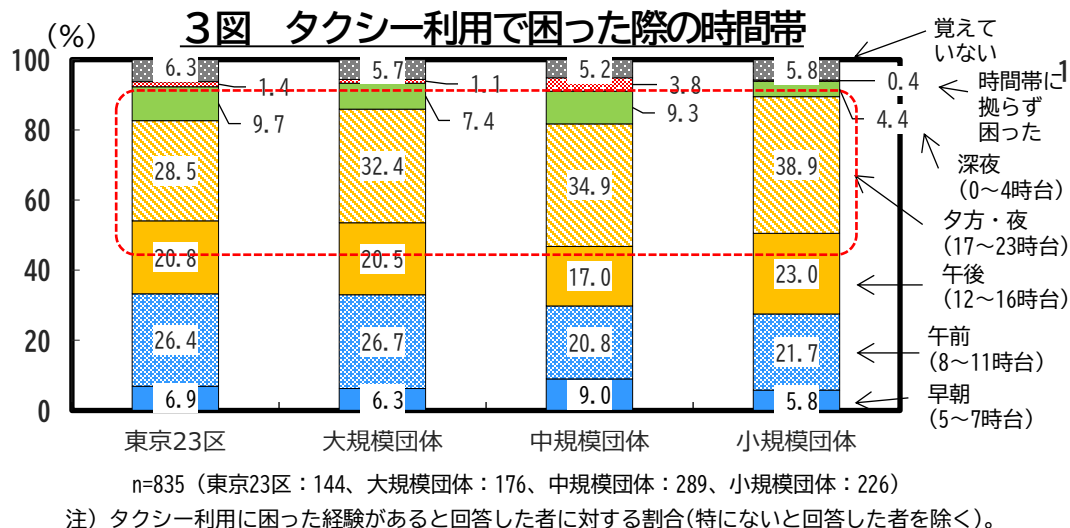
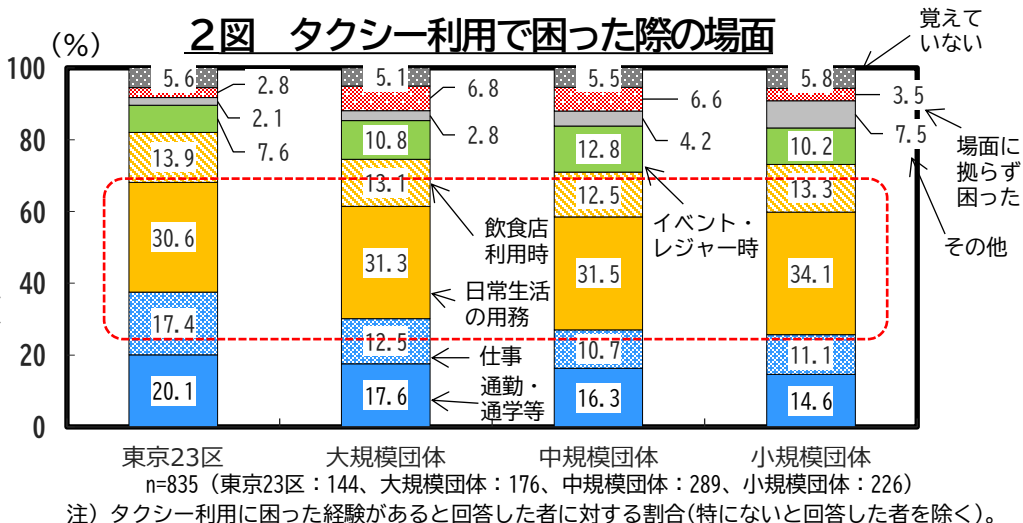
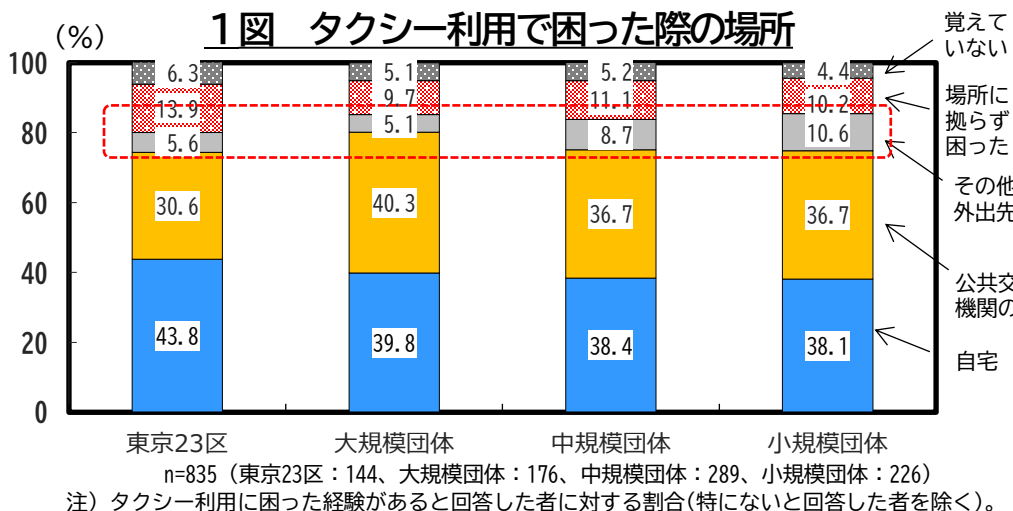
3図 タクシー利用時の困った経験の有無



4図 年齢別にみたタクシー利用時に困った経験がある者の割合

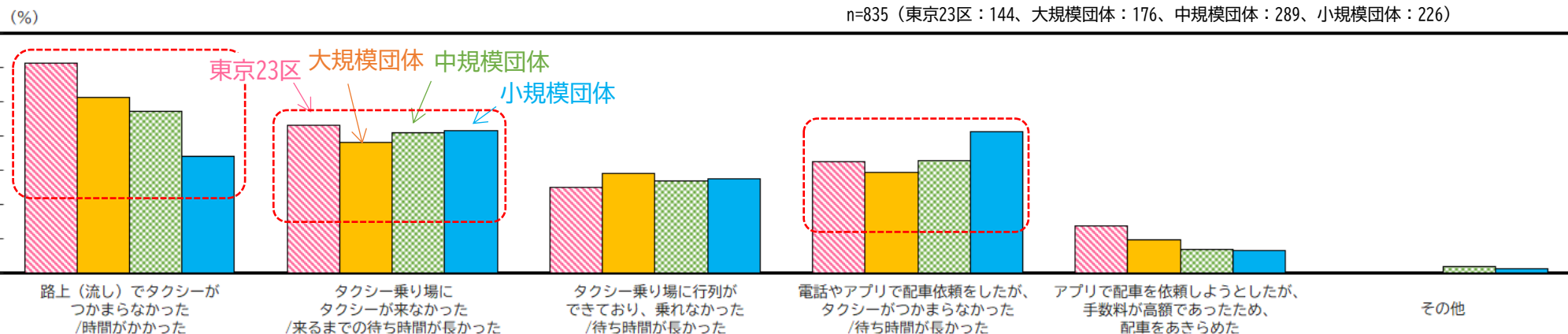


- タクシー利用で困った際の場所は、人口規模が小さいほど「その他外出先」の割合が高い傾向（1図）。困った際の場面は、いずれの規模でも「日常生活の用務」が3割強で最も高く、規模が小さいほどその割合が高い（2図）。
- 困った際の時間帯は、いずれの規模でも「夕方・夜」が最も高く、規模が小さいほどその割合が高い（3図）。困った際の天候は、規模が小さいほど「天気に拠らず困った」の割合が高い傾向（4図）。



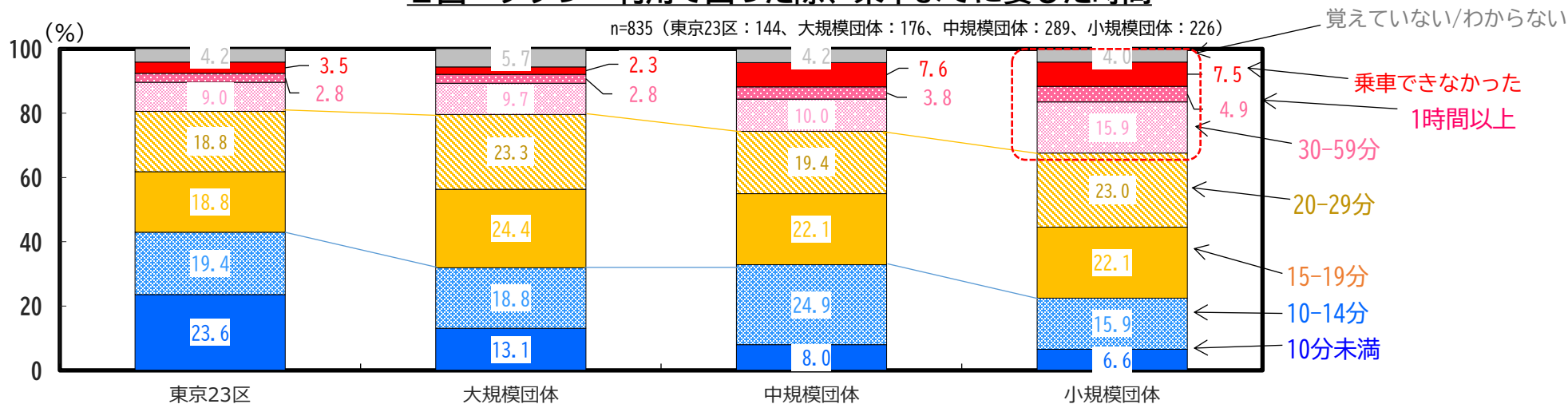
- タクシー利用時の困った経験の内容をみると、規模が大きい団体ほど「路上（流し）」の割合が高く、規模の小さい団体ほど乗り場や配車依頼で「タクシーがつかまらなかった/待ち時間が長かった」の割合が高い傾向（1図）。
- タクシー利用時に困難を経験した者のうち乗車までにかかった時間をみると、人口規模が小さい団体ほど乗車までに時間を要する傾向。特に、小規模団体では、30分以上を要した又は乗車できなかった割合が3割弱（2図）。

1図 タクシー利用時に困った経験の内容（複数回答）



注) 月に1〜2回以上タクシーを利用する者に対する割合。

2図 タクシー利用で困った際、乗車までに要した時間



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合。

- タクシーの乗車までにかかる時間をみると、人口規模が大きい団体ほど10分未満の割合が高く、人口規模が小さい団体ほど15分以上の割合が高くなる傾向（図1）。
- スマホで簡単に手配できる新たな移動サービスが提供された場合の移動のしやすさへの改善期待は、5割程度が「どちらともいえない/わからない」。「そう/やや思う」と「そう/あまり思わない」はそれぞれ2割半ば程度で拮抗。人口規模による差はほとんどみられない（図2）。

図1 タクシーの乗車までにかかる時間

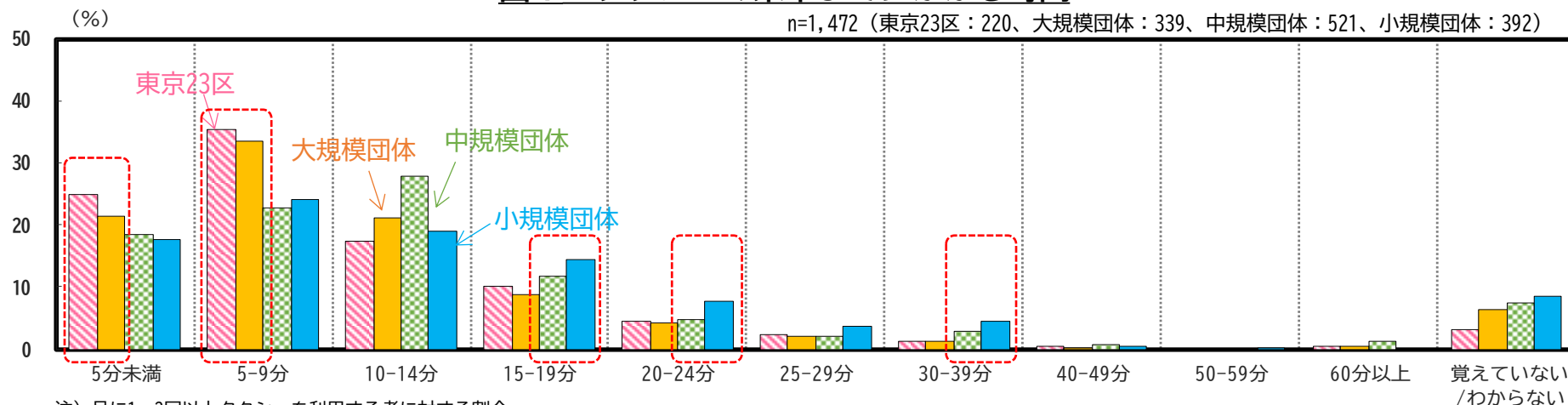
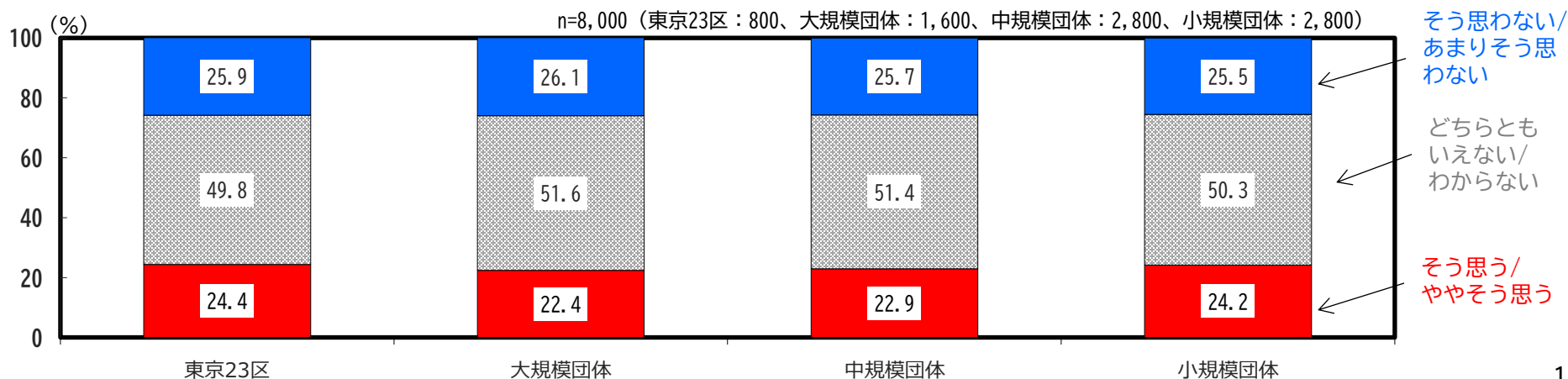


図2 スマホで簡単に手配できる新たな移動サービスの提供で、移動しやすさが改善されると思うか



※下記コメントは、回答いただいた自由回答を要約したものを記載。



小規模団体
30-34歳

ベビーカー移動のためバスに乗れない、タクシーに乗れない。



東京23区
80歳以上

バスの本数がかなり減り、待っていたら、満員で、拒否された。



大規模団体
60-64歳

オーバーツーリズムに伴うインバウンド客の増加により、通院の際に乗りたいバスに乗れないことが増えた。



中規模団体
55-59歳

友人と居酒屋でお酒を飲み深夜になってしまった為タクシーも無く1時間歩いて帰った。



大規模団体
65-69歳

タクシーがつかまりにくかったが、タクシーアプリを使うことで解消されたが費用がかさむ。



小規模団体
40-44歳

タクシーを呼んでも配車できないと言われた。



中規模団体
80歳以上

運転手不足がわが町にも波及してタクシーを呼ぼうとしてもなかなか来ないので病院に遅れた。



中規模団体
50-54歳

バスが朝一本、午後一本しかないのもとても不便。具合が悪くて運転できない時など通院できない。



複数の方の回答

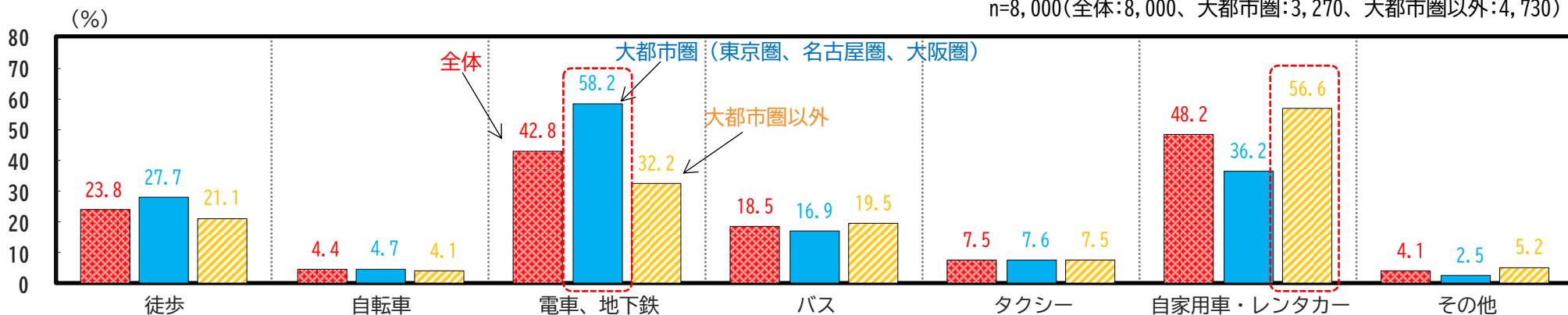
・バス、鉄道の本数が少ない ・バスの遅延、バスの定員オーバー ・タクシーの手配が困難、手配できない ・深夜早朝の移動が困難（公共交通無し・タクシー捕まらない） ・公共交通機関やタクシーでの通院が困難 ・悪天候時に移動できない など

2 旅行者アンケート結果

- 旅行時の移動手段は、大都市圏（東京圏、名古屋圏、大阪圏）では電車・地下鉄など公共交通の割合が相対的に高い。一方、大都市圏以外では自家用車・レンタカーの割合が高い（1図）。
- 旅行先において移動に困った場面がある者は、全体の3割（3～4人に1人）。規模別で見ると大きな差はないが、年齢別では64歳以下、移動手段別では自家用車・レンタカー以外の者の割合が相対的に高い（2図）。

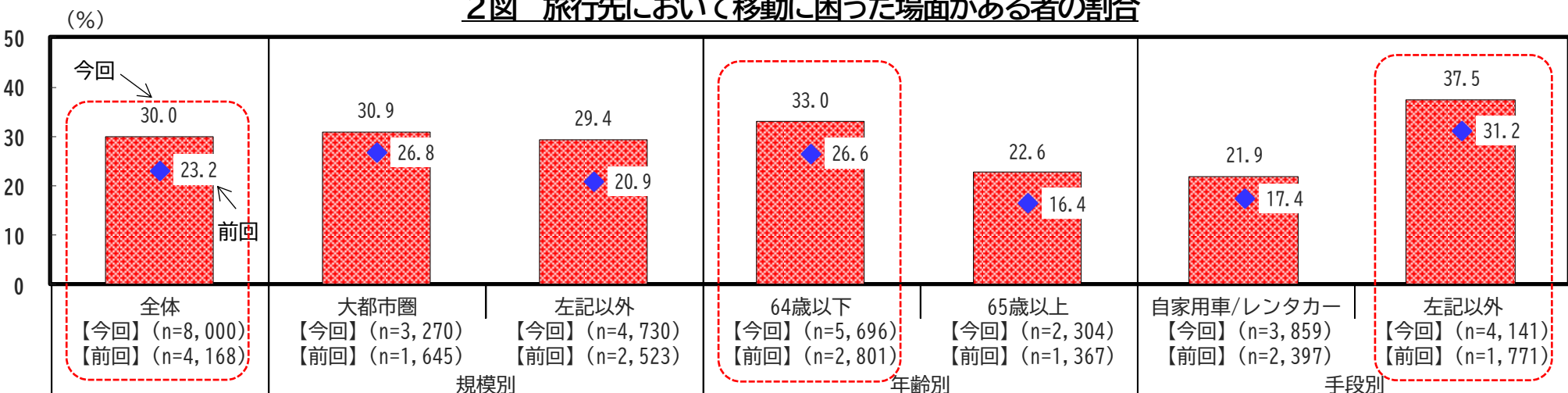
1図 旅行先での移動手段（複数回答）

n=8,000(全体:8,000、大都市圏:3,270、大都市圏以外:4,730)



注）東京圏：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県。名古屋圏：愛知県、岐阜県、三重県。大阪圏：大阪府、兵庫県、京都府、奈良県。

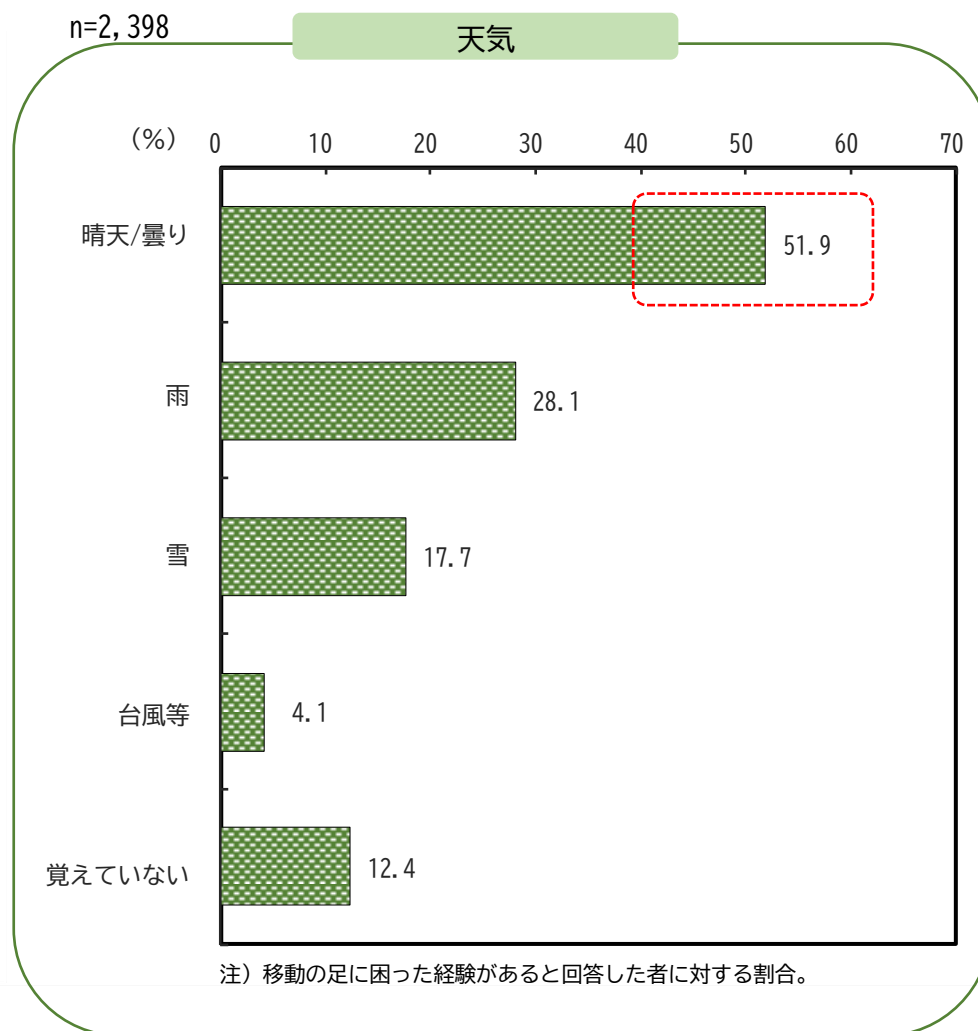
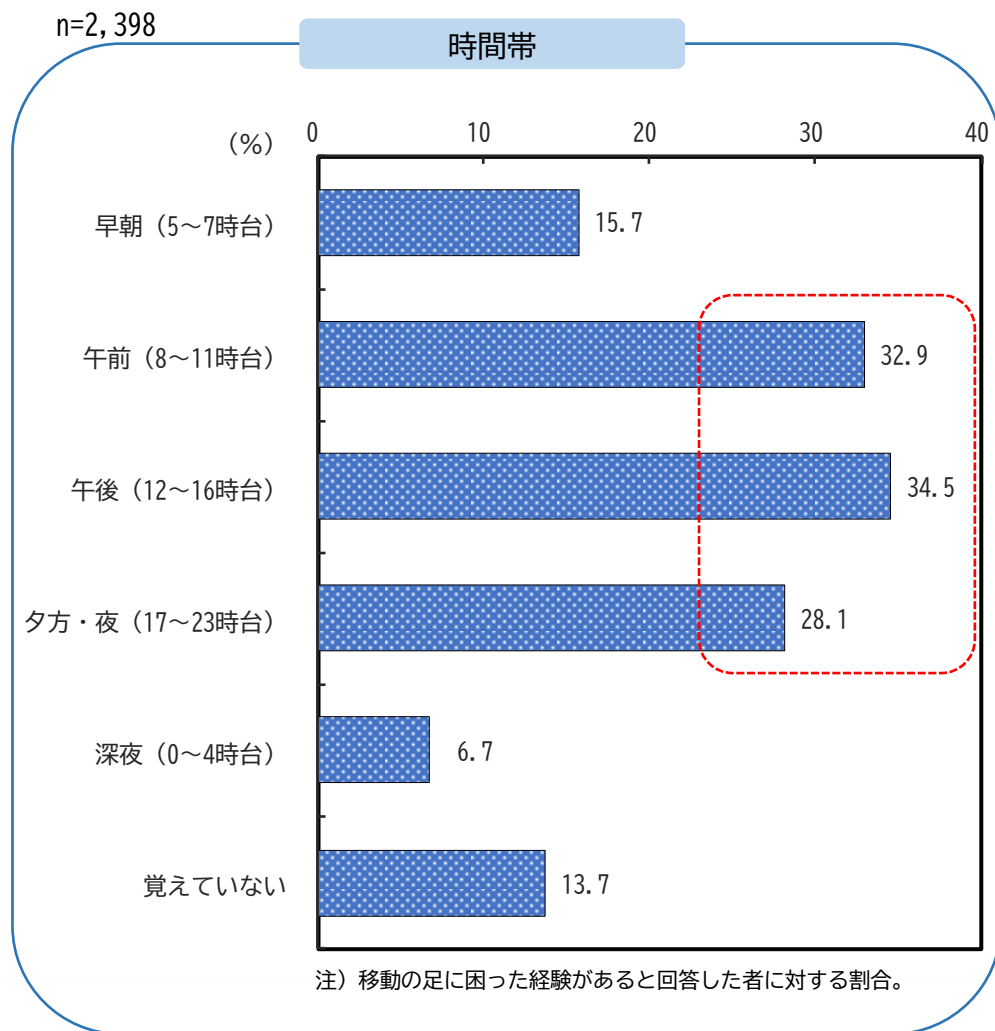
2図 旅行先において移動に困った場面がある者の割合



注）移動に困った場面とは、タクシーがつかまらなかった、バス・鉄道の便が少なく移動しづかった、15分以上の待ち時間が発生した、遠回りのルートにせざるを得なかった、移動をあきらめた、等のこと。

- 旅行時に移動に困った時間帯については、午前から夕方・夜までの割合が高い（左図）。
- 天候については、晴天/曇り字の割合が5割強と最も高く、「雨」、「雪」を大きく上回る（右図）。

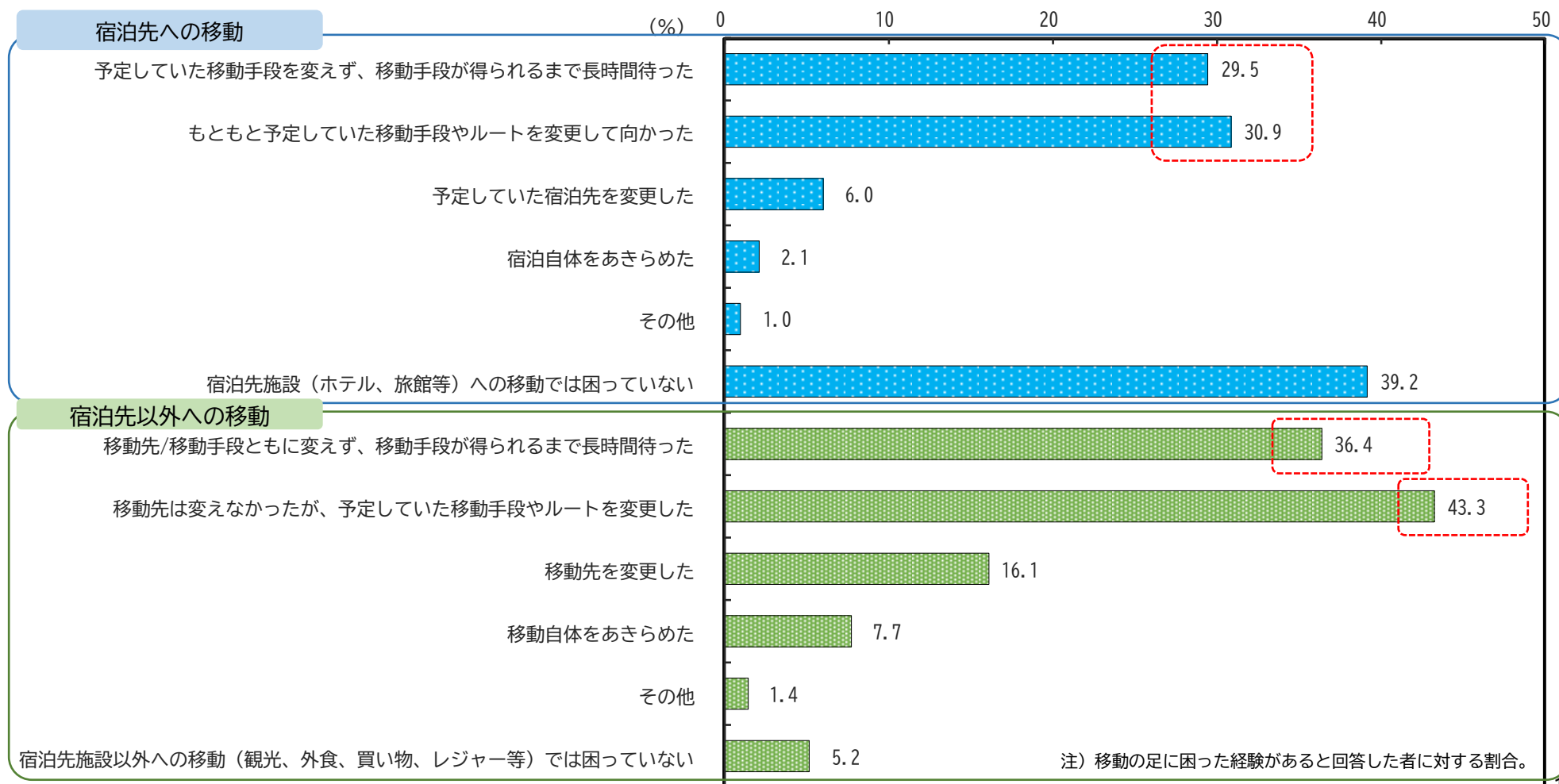
図 旅行先で移動に困った際の、時間帯/天気（複数回答）



- 宿泊先への移動の場合には、「移動手段が得られるまで長時間待った」、「移動手段やルートを変更して向かった」とする旅行者はそれぞれ全体の3割程度（上図）。
- 宿泊先以外への移動の場合には、「移動手段やルート」の変更は4割強。次いで、「移動手段が得られるまで長時間待った」とする者の割合が高い（下図）。

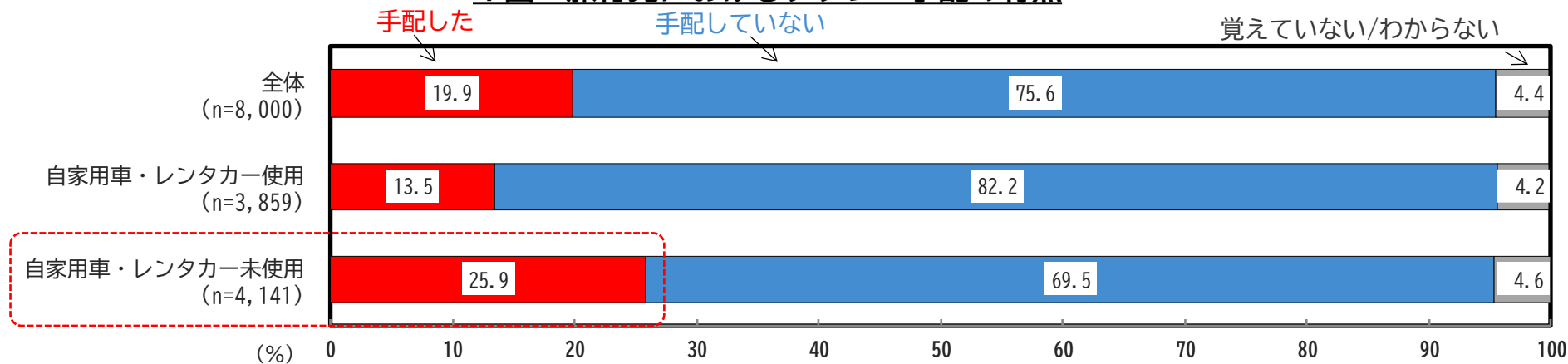
n=2,398

図 旅行先で移動に困った際の、移動先・移動手段などについての対応（複数回答）

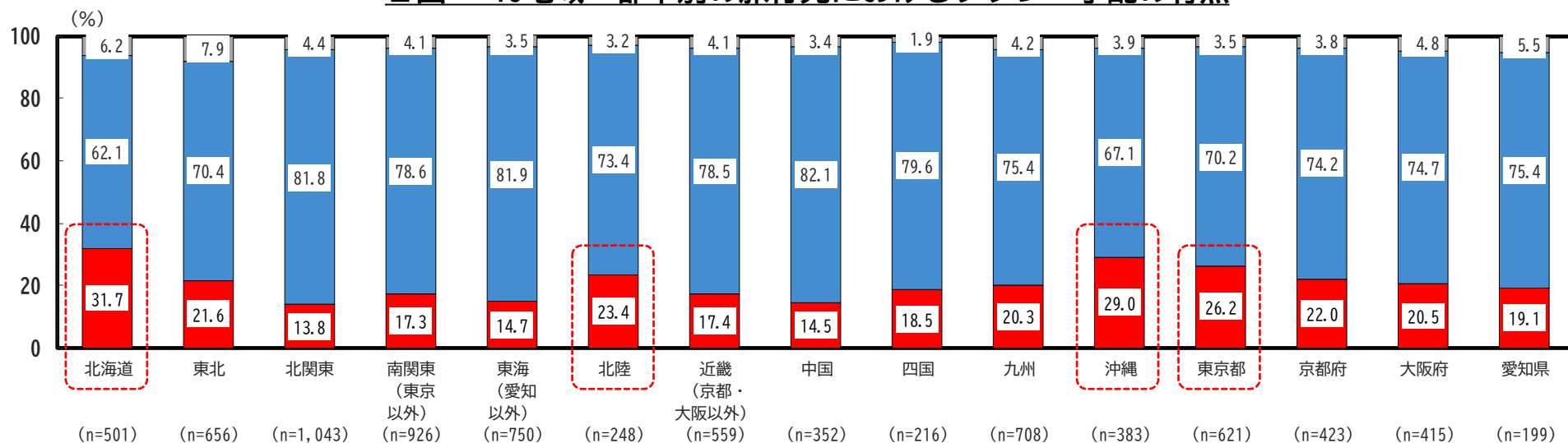


- 旅行先におけるタクシー利用者の割合は、自家用車・レンタカーを用いていない方が、相対的に高い（1図）。
- 地域別にみると、北海道と沖縄のほか、北陸、東京でのタクシー利用率が、相対的に高い（2図）。

1図 旅行先におけるタクシー手配の有無

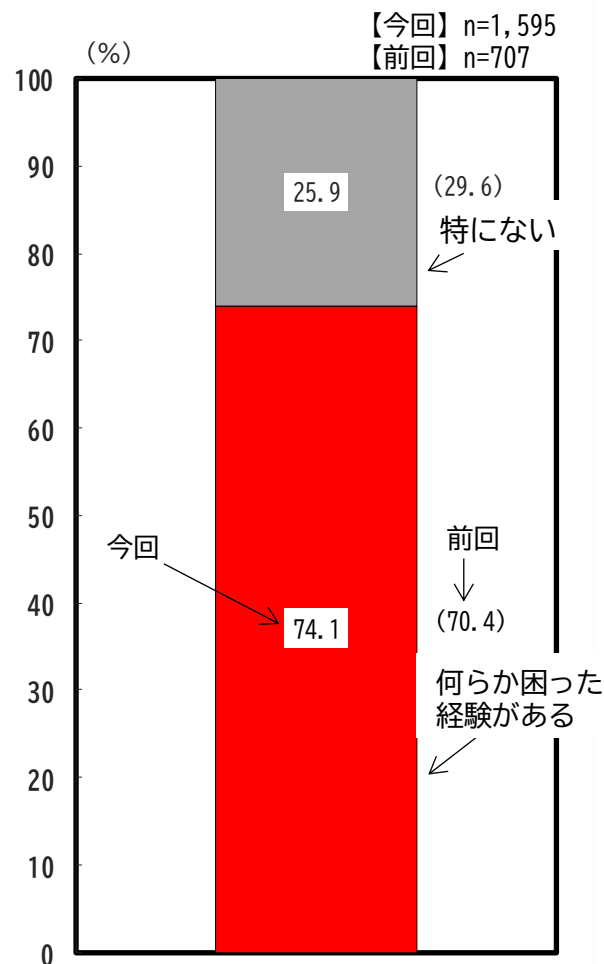


2図 15地域・都市別の旅行先におけるタクシー手配の有無



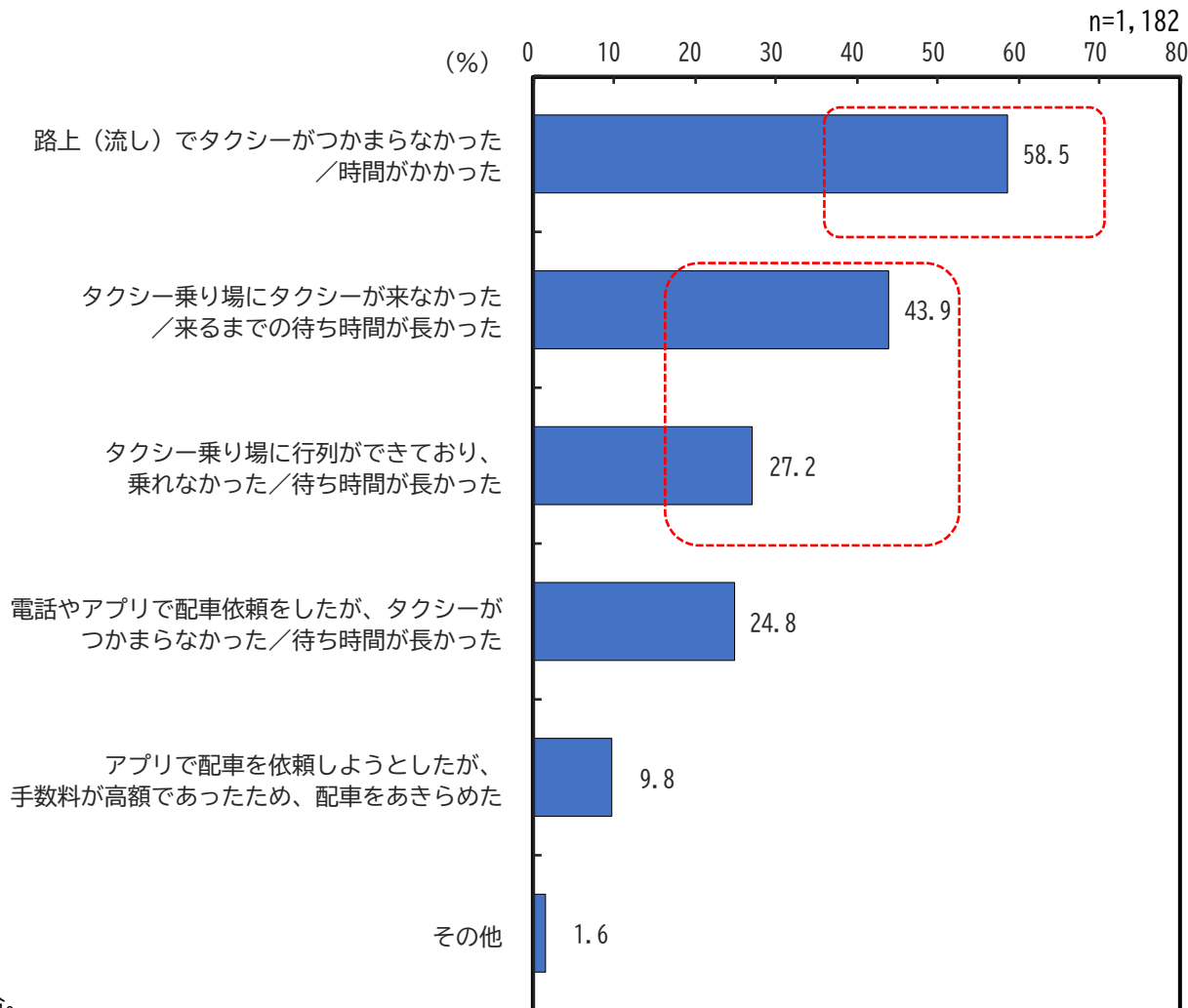
- 旅行先においてタクシーを利用する者の7割半ばは、利用しようとした際に困った経験があると回答（1図）。
- タクシー利用時の困った経験の内容をみると、「路上（流し）」の割合が6割弱と最も高く、次いでタクシー乗り場関連の困難経験が高い（2図）。

1図 旅行先でタクシー手配時に困った経験の有無



注) 旅行先でタクシー手配をしたと回答した者に対する割合。

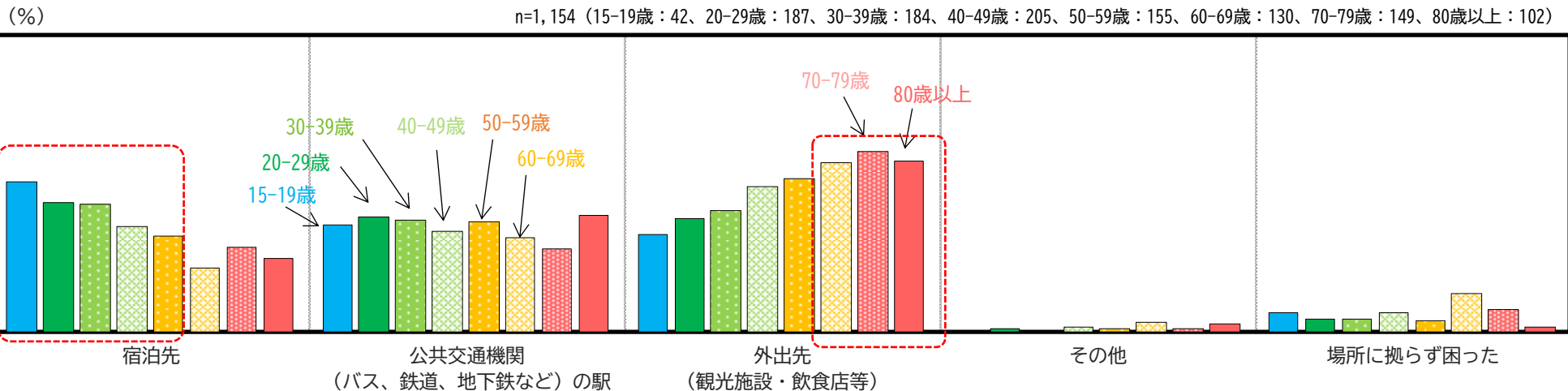
2図 タクシー手配時に困った経験の内容（複数回答）



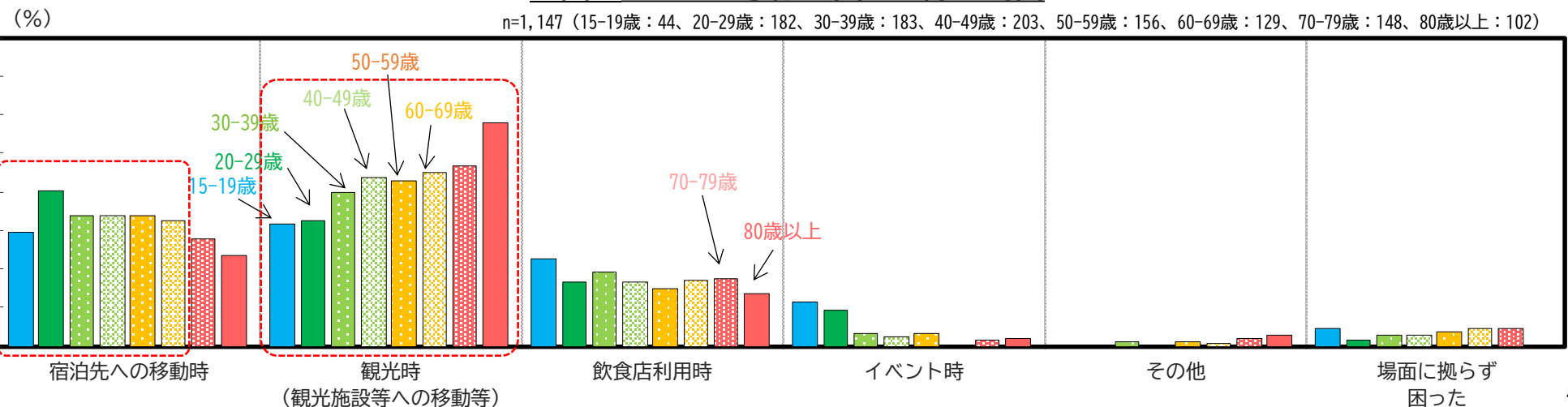
注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合。

- タクシー手配で困った場所については、60歳未満では「宿泊先」の割合が相対的に高く、60歳以上では「外出先」が高い（1図）。
- 場面については、「観光時」が相対的に高く、かつ、年齢が上がるほど割合が高まる傾向（2図）。

1図 タクシー手配で困った際の場所

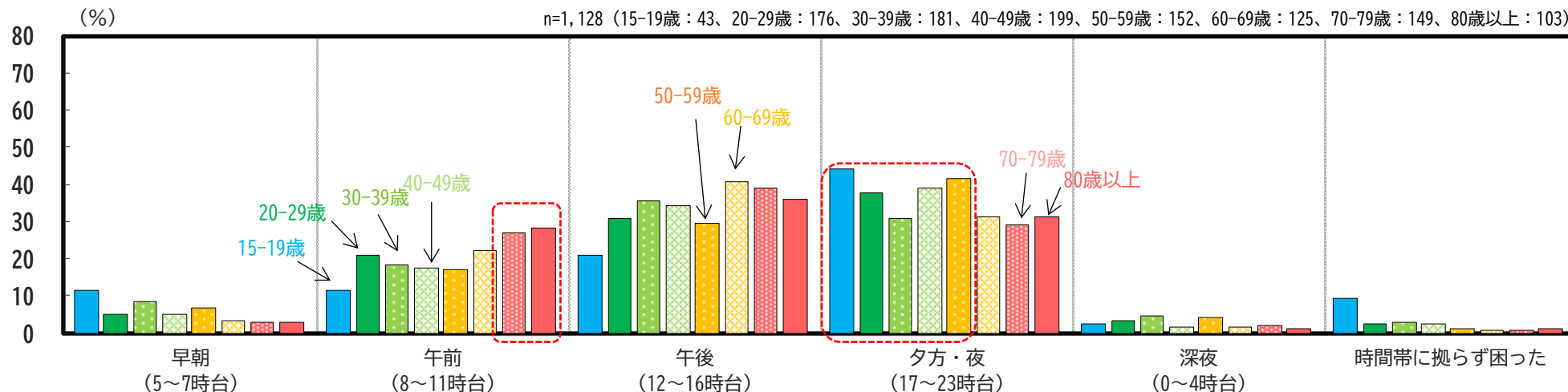


2図 タクシー手配で困った際の場面



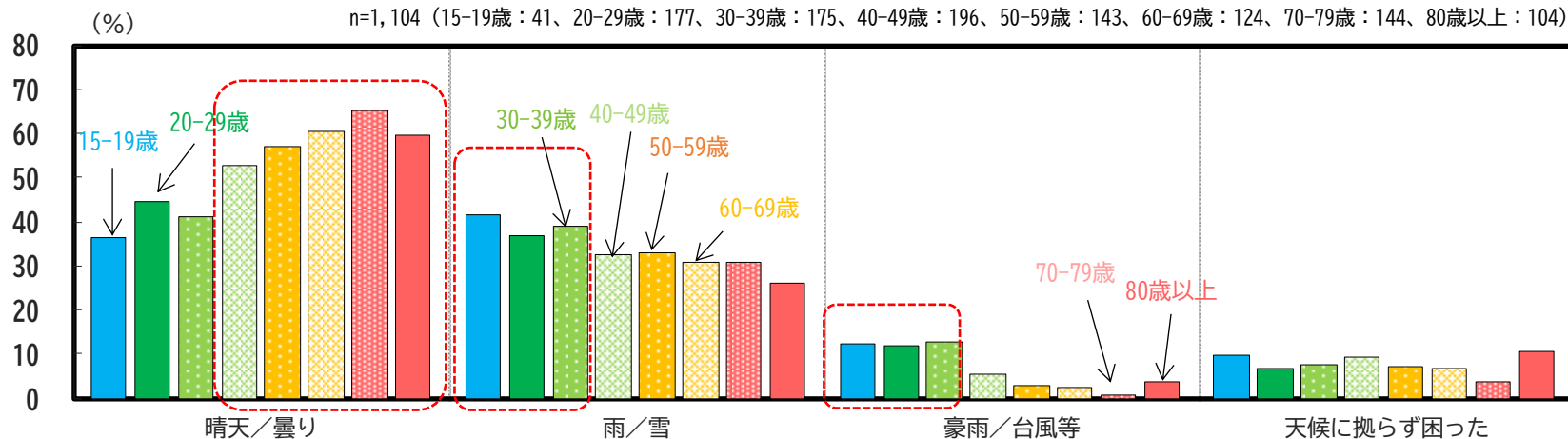
- 移動の足に困った際の時間帯は「午前」は年齢が高い層、「夕方・夜」は年齢が若い層の割合が相対的に高い（3図）。
- 天候では「晴天／曇り」は40歳以上、「雨／雪」と「豪雨／台風等」では40歳未満の割合が相対的に高い（4図）。

1図 タクシー手配で困った際の時間帯



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合（覚えていないと回答した者を除く）。

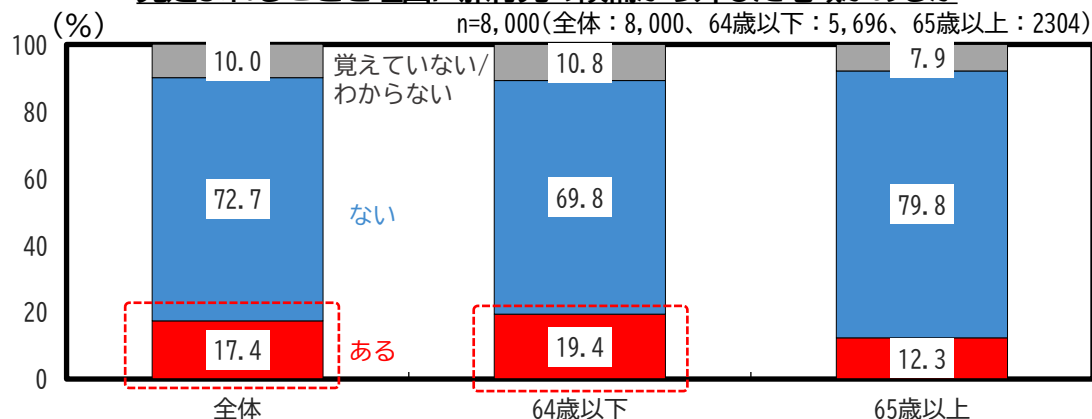
2図 タクシー手配で困った際の天候



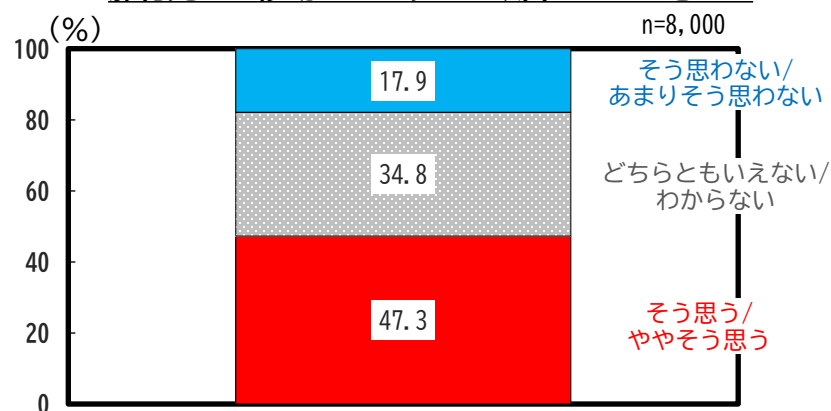
注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合（覚えていないと回答した者を除く）。

- 旅行者の2割弱が、旅行先を選ぶ際、移動の足不足が見込まれることを理由に候補地から外した地域があると回答。65歳以上と比較して、64歳以下の世代で高い（1図）。
- 旅行先において、スマホ等で簡単に手配できる移動サービスが今後新たに提供された場合、移動のしやすさが改善されると思う者の割合は全体の5割弱であり、「そう思わない/あまりそう思わない」の2割弱を大きく上回る（2図）。
- 年齢別にみると、10～20代および80歳以上において、相対的に期待感が大きい（3図）。

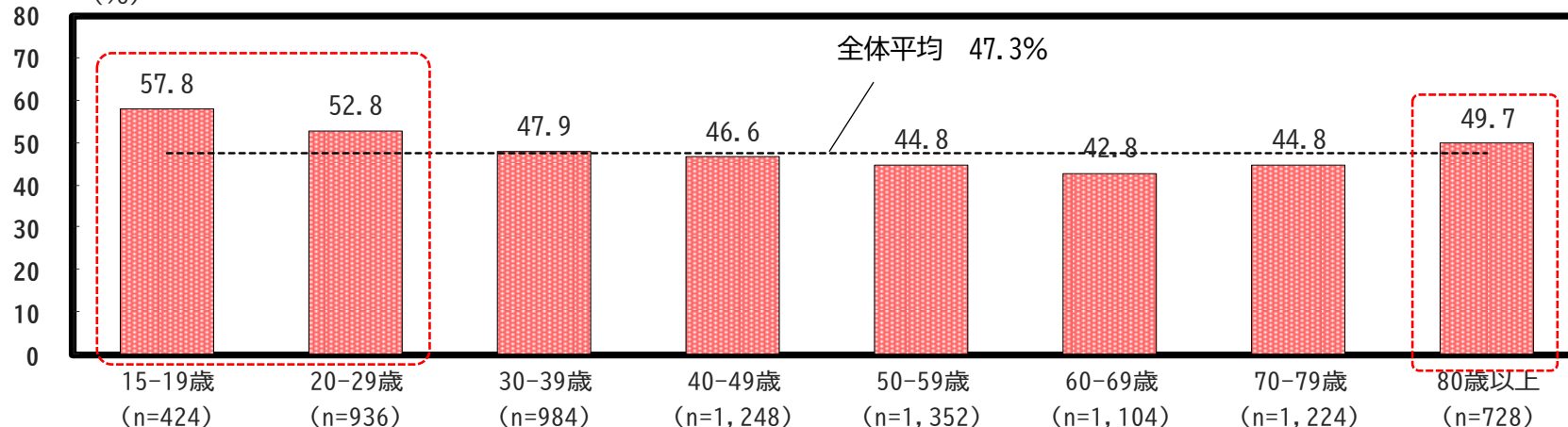
1図 過去1年以内に、旅行先を選ぶ際、当該地域での足不足が見込まれることを理由に旅行先の候補から外した地域があるか



2図 スマホ等で簡単に手配できる移動サービスが今後新たに提供された場合、旅行先での移動のしやすさが改善されると思うか



3図 年齢別にみた、新たな移動サービスの提供で、旅行時の移動しやすさが改善すると思う者の割合



※下記コメントは、回答いただいた自由回答を要約したものを記載。



北関東
65歳以上

もともと公共交通機関が少ないのに旅行者が多い。



東海（愛知以外）
64歳以下

車がないと不便な距離にある観光地への訪問は諦めた。



近畿（京都、大阪以外）
65歳以上

バスが少なく帰りのバスの時間まであまり時間がなく、満足に目的の寺院を見れなかった。



中国
64歳以下

バスは1時間に数本しかないため待ち時間が長くなる。タクシーは割高になってしまう。



九州
64歳以下

駅前のタクシー乗り場に行ったがタクシーが来なかった。



南関東（東京以外）
64歳以下

観光地から宿への移動でバスがなくタクシーを呼んだが、観光地のため常に配車済みかもしくは数時間後と言われ諦めた。



北海道
64歳以下

食事が終わって、店の人にタクシーをお願いしたら、2時間待ちと言われた。



東北
64歳以下

アプリで配車依頼をしようとしたが、サービス提供範囲外と言われた。



複数の方の回答

・バス、鉄道の本数が少ない（減便、曜日による運休がある） ・待ち時間が長すぎる ・バスの混雑、定員オーバー ・バスの遅延、道路の渋滞 ・悪天候による遅延や運休 ・タクシー自体が少ない、手配が困難、手配できなかった ・早朝深夜の移動が困難（公共交通無し・タクシー捕まらない） など